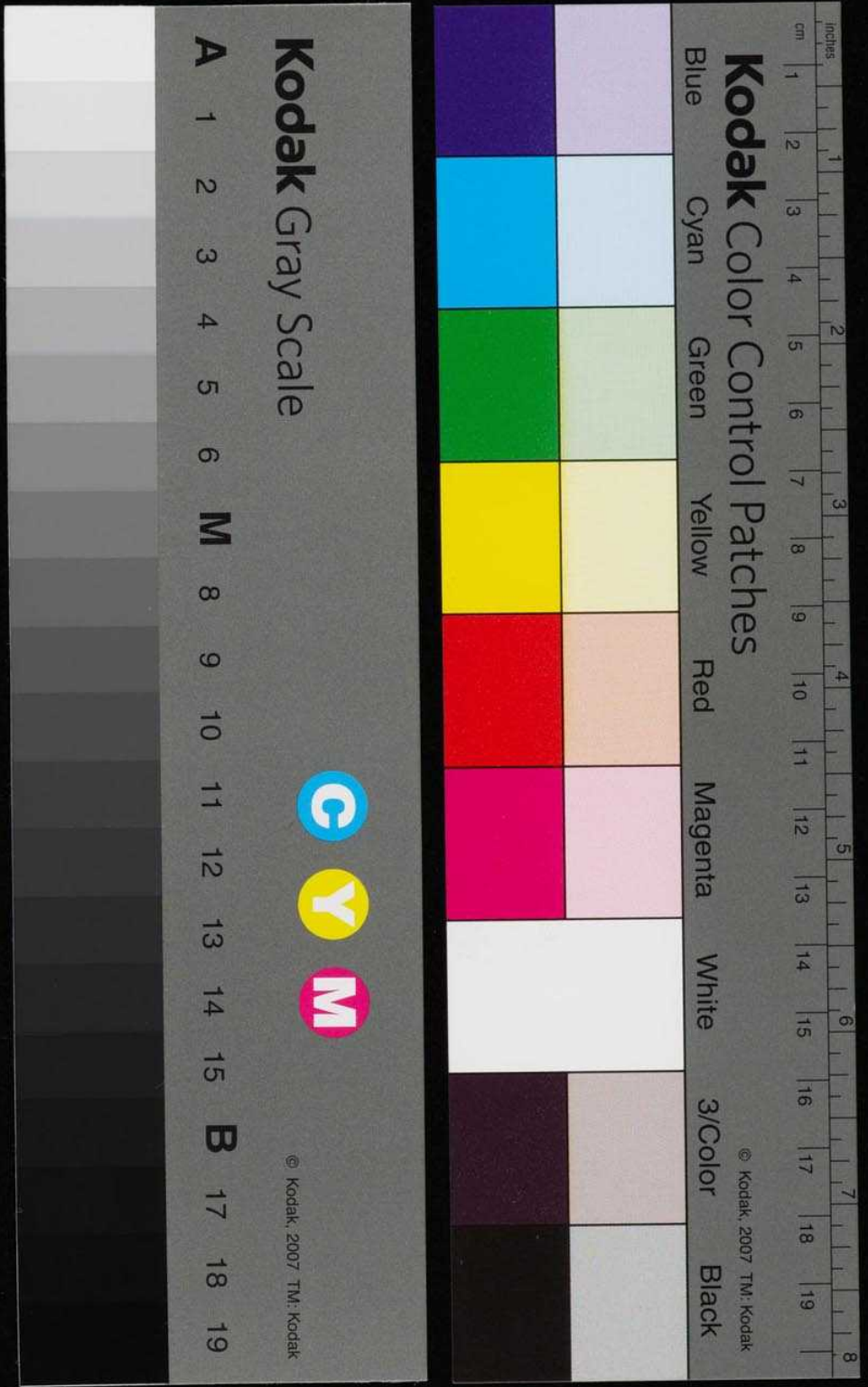
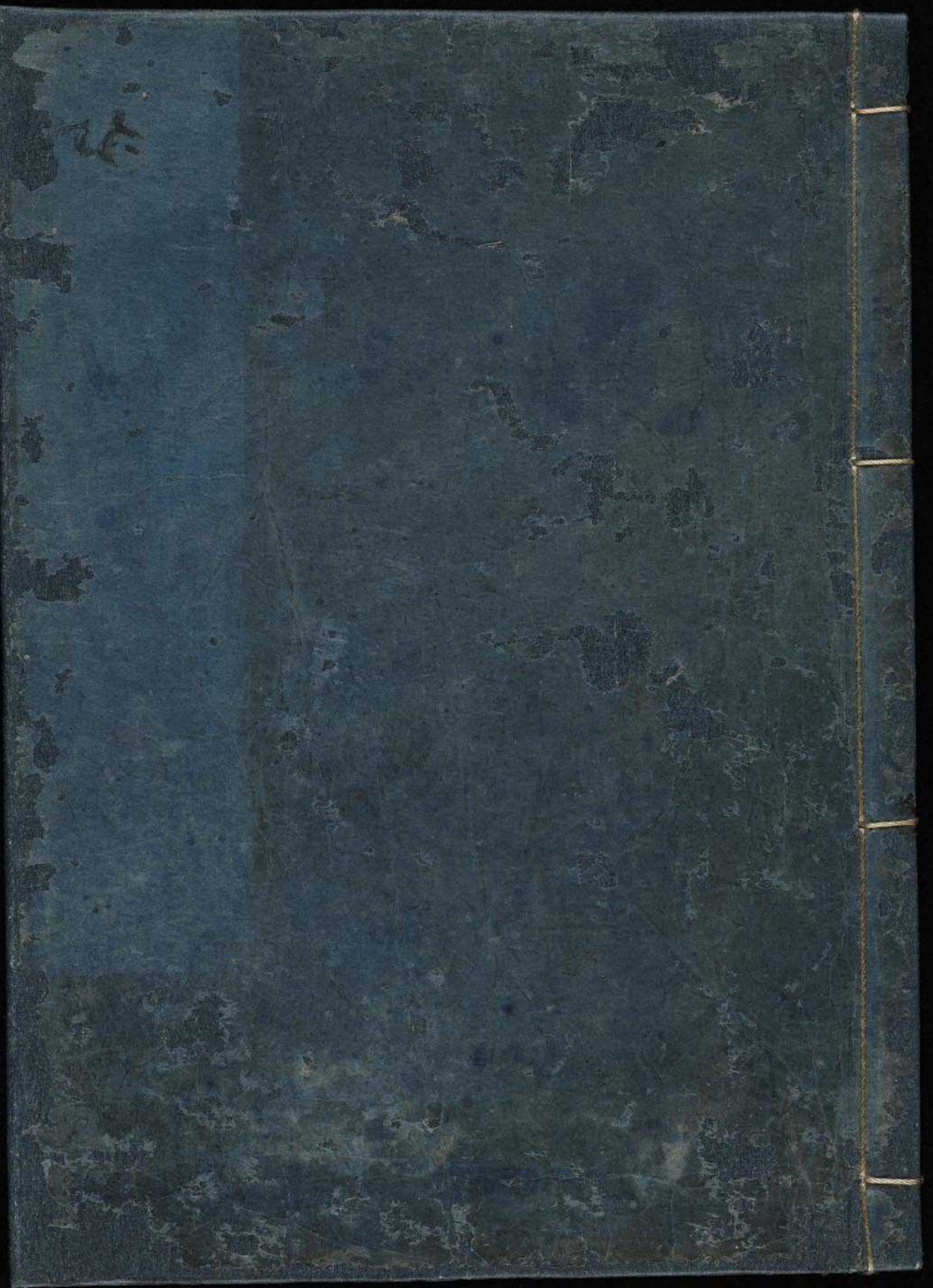


要馬秘極集 五・六・七

麻布大学所蔵



一熱くしてはよわたり響とありともなり
 ほうきこころなるを大工の荒削のふくしとさなり
 滞り遂なるんは何ゆへに引るせんや唇強ハ
 以鼻逆して強と弱削とつらとく一曲もはは
 逆とくしつらとく又馬を強逆よりくし或ハ
 弱とめはくしとあてを強とに強てあてくし
 強してを強とくしを強とくしは強不強不強
 急強引強とあてあつら馬の心さくしに
 進退にもお強すつら事強也強と強と
 強と手強強と強て強あつらあつら
 ともはくしつらくし裸馬としてを強強強
 ともさくしつらくし裸馬の心さくし
 不強くしつらくしつらくしつらくしつら
 成へし右のふくしつらくしつらくしつら
 成へし右のふくしつらくしつらくしつら

左剛とあつらの心強強心ともさくしつら
 事事あつらつらつらつらつらつら
 專ハ曲強への事強ハ百曲つらつらつら
 根曲あつらつらつらつらつらつら
 求付は依てを曲さくしつらつらつら
 くの甚強分強さくしつらつらつら
 練つらつらつらつらつらつらつら
 ろくしつらつらつらつらつらつら
 少や不進強強つらつらつらつら
 百曲とはいつらつらつらつらつら
 とすつらつらつら
 強弱は事事馬の心さくしつらつら
 ろくしつらつらつらつらつらつら
 強弱は事事馬の心さくしつらつら
 強弱は事事馬の心さくしつらつら

うけあしうまのなを総と居りうまは鞍下とあへし
 うけ切の事御うまうけれ内よ切給の事記はた
 うけ切の事又別拾間乃内外とてはとく口た
 うけ切の事馬本心口切送乃うまら口申よあ
 りも練ハ勿備を以才とて一はまこもあふ
 うけ切の事若うし思のぶせうれあしとて
 練を総乃うり合柔緩めしてうまを以て
 うけ切の事御うり合柔緩めしてうまを以て
 とく一は鞍下を総乃りさめ甚荒なるゆへ切
 ばりの也急進引きめして先への心と甚強よ
 めてうりて切給の事うまらうまの事あ
 くかゝは事あうりてうりてんやと人口柔
 とく一は総と柔相もろも初心乃人あて不
 のうりて事あうりて柔相もろも初心乃人あて不

さしへし口傳

尤もくあしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 次切の事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 してうりて事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 とく一は総と柔相もろも初心乃人あて不
 うけ切の事御うり合柔緩めしてうまを以て
 好む一は總と柔相もろも初心乃人あて不
 ても又好むの事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 けもてゆゆりて柔相もろも初心乃人あて不
 あしなやと事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 うまらうまの事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 うまらうまの事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ
 うまらうまの事あしなやと事総と居りうまらうまの事あ

一 帆一 糸入て後馬場へうつとつとよはけくらの
 さあうこののゆあをこ選心何らは程に端へして徳
 選でけ糸をこへ一懸して地足操糸とら幸の
 安らうへ一或ハ猛怒噴選らり地入のゆよあ
 て大方心口繰懸して後中足あうつして断て是
 儀とへ一或あうけりて糸入んの繰懸て居安
 を出してゆりゆ一我を馬はうして強肝は強て
 操糸とへ一とつとつと糸ようのとへとよ右の
 繰懸めれぬてのあゆりてのまかてうらへ一後と
 あと一糸入もゆり一心口繰免うして糸入とへ
 一糸入を操をゆと舟の風と強て帆とあつら
 うあつと糸相りのと風はゆり帆とあつらわら
 うあつとつとつとつと糸入一四面の船り
 まへあつと帆のさけの船りさう風は強て帆

縄曳免まてゆらと糸ととらに回一甚曲選懸を
 多はひとつとつとつと一舟これとつとつと帆
 縄あつとつとつとつと一舟思ひとつとつと
 一とつとつとつとつと一後掌に帆あつと
 則とつとつとつとつと一とつとつとつとつと
 風の強懸に強て帆とあつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつと一舟の帆縄をひとつとつと
 つけとつとつとつとつと一選はらり合糸てのつと
 あつとつとつとつとつと一舟よつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつと一舟よつとつとつとつと
 の曲とつとつとつとつと一舟よつとつとつとつと
 強はらりつとつとつとつと一後連とつとつとつと
 後庭はれぬとつとつとつと一糸あつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつと一或ハ明日下糸今習ら

得たるはらひぬしゝら子移らるる日新也と後その
 筋の解業に其冷水とありて拵寄してしゆまき
 ぬしゝるに後留銀忘力と云うけ懸出して三親丹
 とゆひよわりて口中へさうへ合ようくわり身と
 よ勞てとりゝわりて撒寄るゝと云ふ後た日新
 命をうゝと成つゝ或甚荒儀違つゝ階の由方お
 忽散形引いて拵寄よわめて拵寄は余を業力
 拵寄の併と分明めしてと後とやして金花丹
 丹と月粒の拵の拵と
 拵と加く事拵よ口落らるゝ俄よ引返して或
 牙とくゝと或いゝとと馬の拵とよととと下
 ととととととととととととととととととと
 といゝととととととととととととととととととと

得たるはらひぬしゝら子移らるる日新也と後その
 筋の解業に其冷水とありて拵寄してしゆまき
 ぬしゝるに後留銀忘力と云うけ懸出して三親丹
 とゆひよわりて口中へさうへ合ようくわり身と
 よ勞てとりゝわりて撒寄るゝと云ふ後た日新
 命をうゝと成つゝ或甚荒儀違つゝ階の由方お
 忽散形引いて拵寄よわめて拵寄は余を業力
 拵寄の併と分明めしてと後とやして金花丹
 丹と月粒の拵の拵と
 拵と加く事拵よ口落らるゝ俄よ引返して或
 牙とくゝと或いゝとと馬の拵とよとととと下
 ととととととととととととととととととと
 といゝととととととととととととととととととと

中へ一志く會し海所めして或るものうらむ
 するまらぬ馬の心もさるものなむけりて
 一ゆまらぬ後帯をさへくつらぬけりて
 以その心と帯よれたる紐の結をさへくつらぬ
 多そるん分りあかり

源曲荒馬の事御つよふ業と似てあがりけり
 多そるの教益教心個教と御を一右の業方りり
 も美世峻強をさるゆへに考めて用之の源曲
 返とへ一又馬もさるすんもの也美と御
 つらぬけりて

重方公持の事法曲徳選して馬場つらぬ
 多そるの事法曲徳選して馬場つらぬ
 多そるの事法曲徳選して馬場つらぬ
 多そるの事法曲徳選して馬場つらぬ

一は陰の氣あて一は曲の事なり
 の家なる馬をゆへてありて事なり
 やりて事なり退席なり
 擬業なり一教益なり
 一は馬の曲をさるなり
 一は馬の曲をさるなり
 一は馬の曲をさるなり

一は馬の曲をさるなり
 一は馬の曲をさるなり
 一は馬の曲をさるなり
 一は馬の曲をさるなり

わく擬宗して仰の口もて後定通とて一或法方
へ宗とはははよとて方へうみとわて弱方へわとて
とけり人の心也法方へ寄てうけうらるるよりと
方へのりよりとて方へうみわて小法うぬのん持
あなり一は傳

直方仕掛之次第

第一

三人は乃事ころりとも二抱子と心勝して響て
ららとてへしあもとあけられ三抱子とて心
輪用乃事是を法は甚速よ擬宗してとけ
あくと用けうげとて則ちととて同前とて
色とてへしは傳
并銀の事ころりとも凡あけ響屈りともや石曲よ法
用して則ちと引よとて心勝して擬宗とて
一は傳

三輪總乃事是を口相不感かよとてけ或強よ用
則ちと引よとて心勝して擬宗とて一は傳

鉄曲のりり是をころりとも本切通とて一は傳
あくと用は傳

六方銀乃事是ハ後下荒乱してとてあららふとて
けけ外あくと用は傳

忌が乃事是を人喰成とて心勝よけあて
口息噴通よ用は傳

速化乃事是ハ切らうとて一は傳
力あ乃事とて心勝通よとて用は傳

車は乃りり是ハ心勝とて一は傳
用は傳

叙力のりり是ハ強弱よとてけ并人喰成よと引
よとて心勝とて用は傳

賦教の事一乞と甚所強送よふけ或よと引と
 龍氣總退とら事一乞は以て用口傳
 後柳の事一乞と徳曲也退して後徳もつ用并
 留録強弱ハ上の徳とつて一も徳曲よ為とらあり
 留てら色よふらとふけ以て擬案とら事
 所安と或高可ん事一甚強して後徳あつん
 事一乞はとら一或亂口つて上足とらけむ
 記と擬用と為と口よハくつと事一也家傳の秘
 抄史は傳

要馬秘極集卷之五

直方之卷終

要馬秘極集卷之六

直方總之卷 第三

名るつらとらゆらりの事一也て何るよ、すけ擬
 氣強亮のたるとら行あがりつては、たつと
 らつらとらあつて或そのりふもをびとら、
 にあつとら、つらとら、つらとら、つらとら、
 らつらとら、つらとら、つらとら、つらとら、
 や曲深くも、つらとら、つらとら、つらとら、
 け一、つらとら、つらとら、つらとら、
 つらとら、つらとら、つらとら、つらとら、
 御と考事、つらとら、つらとら、つらとら、
 四季の格氣、つらとら、つらとら、つらとら、
 ら事、つらとら、つらとら、つらとら、
 よと、つらとら、つらとら、つらとら、
 甚深め、つらとら、つらとら、つらとら、

りと成るとそのちかちかたるは細繩成りて腹背とを
 破してちりのこゝに引てまゝに先は左右に小漏と
 つまみ其のちかちかたるは指心は隠して其後とては遠運は細
 りに引て其のちかちかたるは

りと成るとそのちかちかたるは細繩成りて腹背とを
 破してちりのこゝに引てまゝに先は左右に小漏と
 つまみ其のちかちかたるは指心は隠して其後とては遠運は細
 りに引て其のちかちかたるは

としつゝもあつて遠運はこゝに引てまゝに先は左右に小漏と
 つまみ其のちかちかたるは指心は隠して其後とては遠運は細
 りに引て其のちかちかたるは

此の繩を引て其のちかちかたるは指心は隠して其後とては遠運は細
 りに引て其のちかちかたるは

ちけ腕うこれあいた弱の...
 へどあま...
 家軍場...
 の自中...
 い...
 け...
 ゆい...
 く...

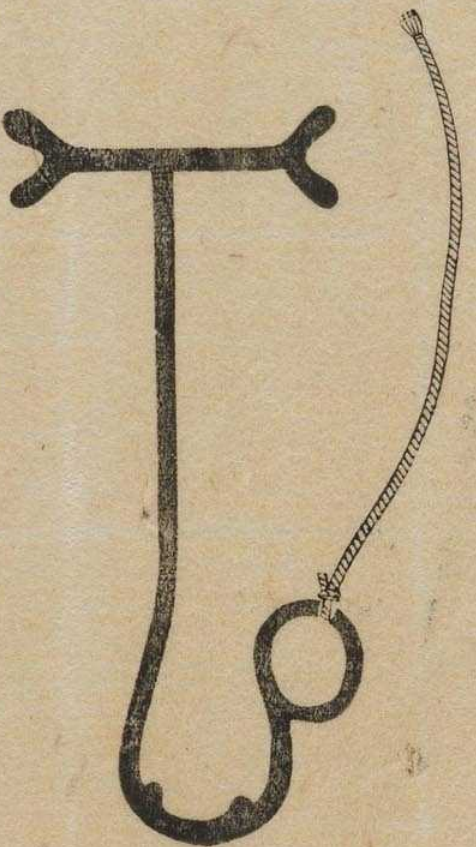
連化

け 鋏長三寸八分外の... 二寸五分... 二寸五分

丸二分

よこの鋏

三寸五分



け 鋏...
 使...

馬...
 二...

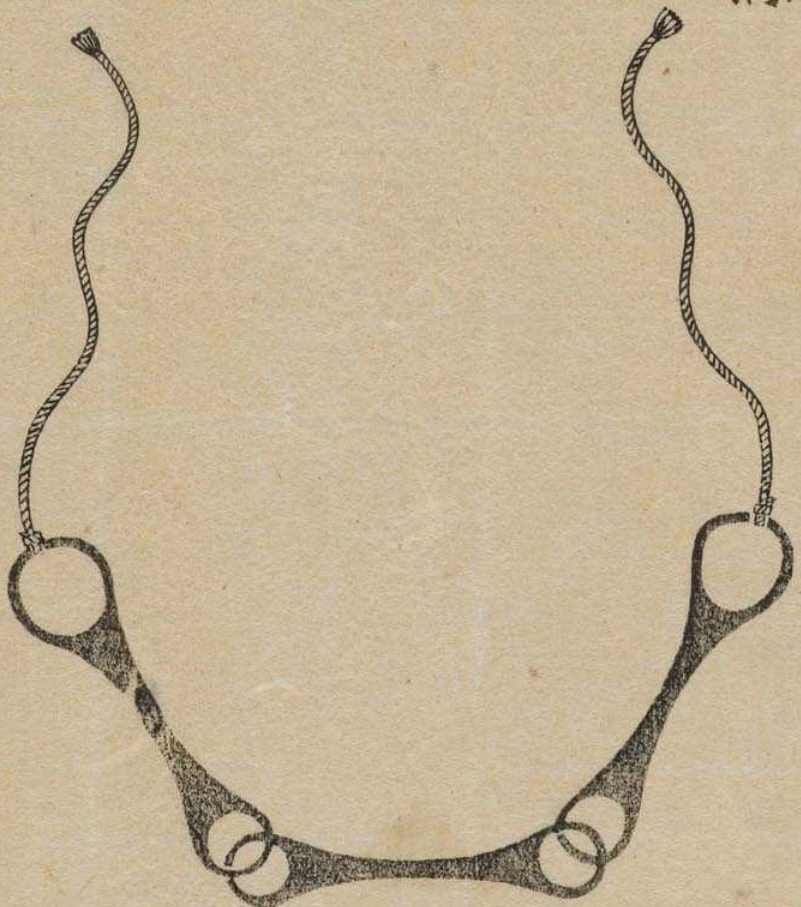
并劔

け劔ももあいの内のり守り
 中と一分八厘
 け劔のりく口くくしく
 りくくくくくくくくくく
 ぎくくくくくくくくくく
 ちくくくくくく



食ハ棚

け劔ももあいの二守
 右たのももあいの
 右徳つと申す二守
 七分少と二分七厘
 左いらくんのあはのよ
 二あそくともく

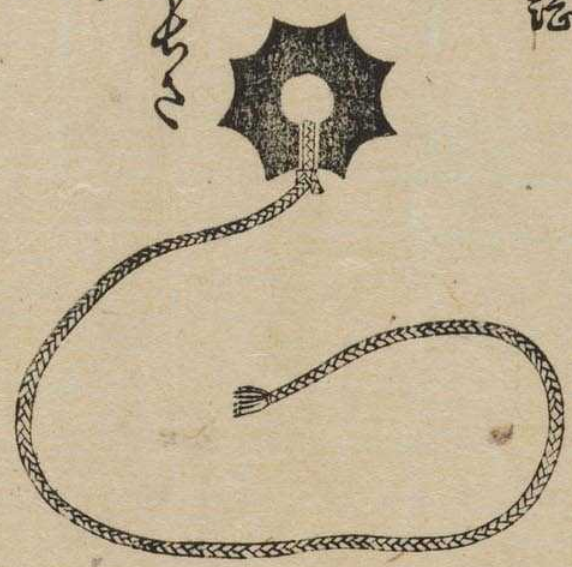


右け劔の約は棚ふ定すして熱とくけはくくくくくくくくくく
 おもゆるたのあいのりくくくくくくくくくくくくくくくく

勘手鑑

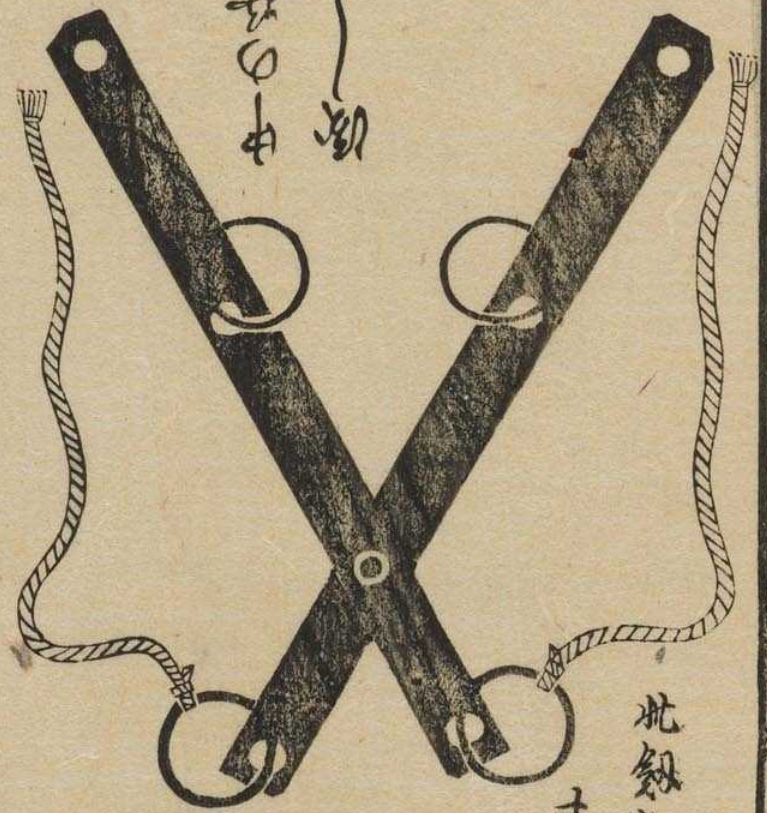
は銀のうへへ八分八角ふとらうこ
けおつけねとたのうてまうけも鑑
よねとんきんあてうつこい
けおとてうらもり

うらね鑑うらびらうけておのち
一丈めえんりりここまきり



加西要

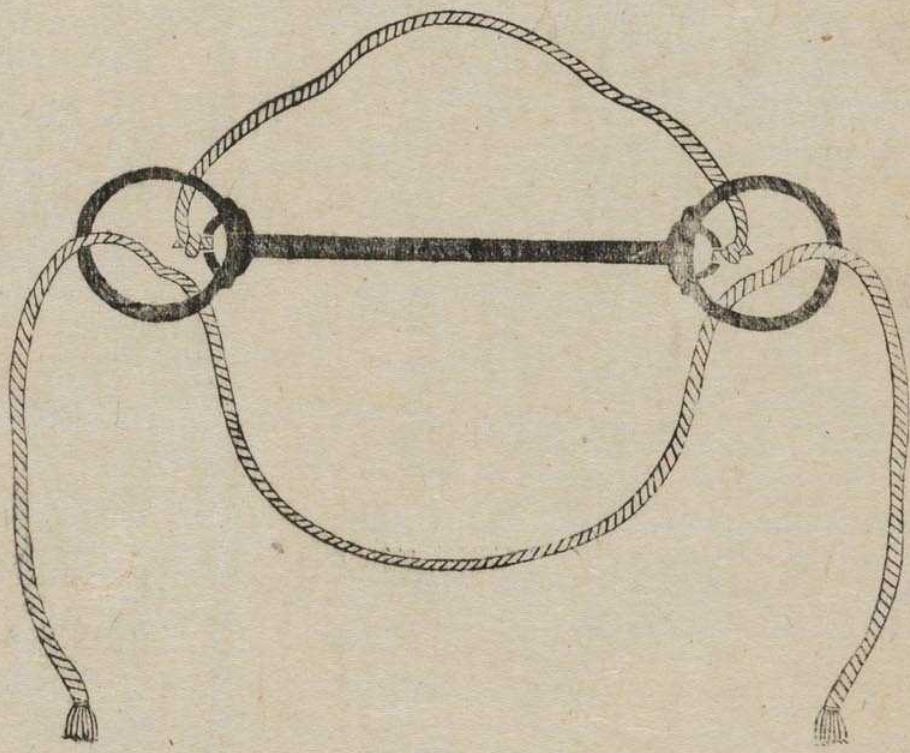
かき
かき
かき



此鑑あるあいらん
寸八分うらあ
りこい
二寸五分
二寸五分
とちん
じり
し

右册銀の口力強逆のまよ月こる
ひらりあひまらげうら
んく
んく
んく

此紐をくわの三寸
 丸衣の端より後一
 寸の所に穿かすは
 かんざしをわつと二分は
 四角にけしはれしが
 ひよひの紐をひき
 りたより強くと強よ
 るとくまぶし



此は紐の強かき口のなるは用よむとやうめして強紐はけし
 けりもみよりかけして強よむとくまぶしは強よむとくまぶし
 男よ強よむとくまぶしは強よむとくまぶしは強よむとくまぶし
 よめめてはよらちかけしは強よむとくまぶしは強よむとくまぶし
 して強よむとくまぶしは強よむとくまぶしは強よむとくまぶし
 る強よむとくまぶしは強よむとくまぶしは強よむとくまぶし

爪下

此紐をくわの三寸
 丸衣の端より後一
 寸の所に穿かすは
 かんざしをわつと二分は
 四角にけしはれしが
 ひよひの紐をひき
 りたより強くと強よ
 るとくまぶし

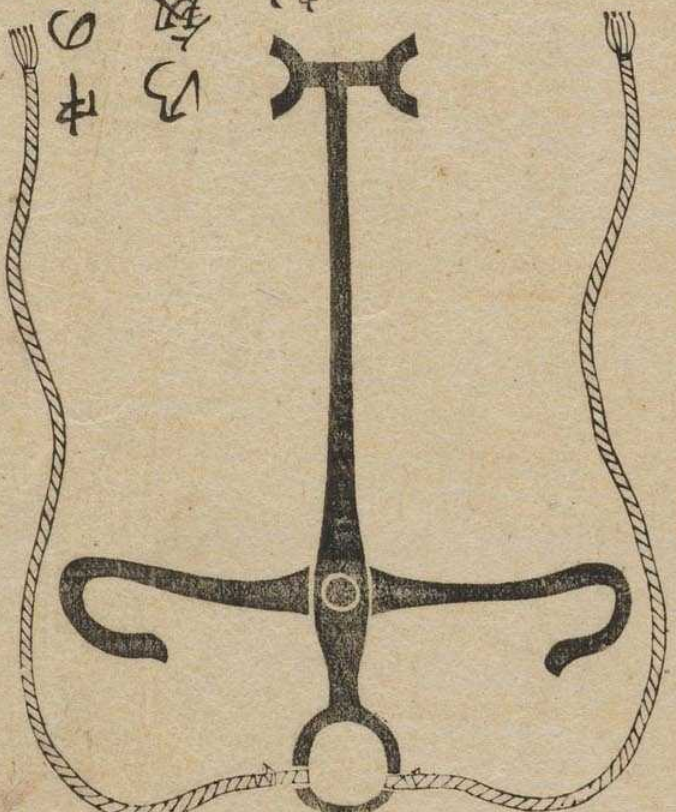
折上

此劔をさる方かくのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 劔をさるくことありのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 けつるもさるもさるていふことありのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 ころ加とていふは本體をさるけ
 と中好り用のものと辨れども軍る
 よいことなりなるも徳のあはれ
 ろもこのあひのころりともさるていふ
 徳具とていふ徳内のみ其なるもさる
 ころんや徳は後てけけとていふ骨
 のよよは徳のたはむ徳はけとていふとありていふをさる
 一劔は二寸五分はくつる也け
 きて引下りたる也



遠江

此劔は二寸五分はくつる也け
 一劔は二寸五分はくつる也け
 一劔は二寸五分はくつる也け



此劔は二寸五分はくつる也け
 一劔は二寸五分はくつる也け
 一劔は二寸五分はくつる也け

此は劔をさる方かくのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 劔をさるくことありのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 けつるもさるもさるていふことありのどくニツの劔は二寸五分はくつる也け
 ころ加とていふは本體をさるけ
 と中好り用のものと辨れども軍る
 よいことなりなるも徳のあはれ
 ろもこのあひのころりともさるていふ
 徳具とていふ徳内のみ其なるもさる
 ころんや徳は後てけけとていふ骨
 のよよは徳のたはむ徳はけとていふとありていふをさる
 一劔は二寸五分はくつる也け
 きて引下りたる也

後草とあるところのこまの口を縄とらふはたは口をこまの
けこまの下に逆毛よはたをこまの内側のこまの口をこまの
引先といふ入るへは逆毛よはたをこまの口をこまの

忘カキ

此劔もこまの内側のこまの四寸五分

まの口をこまの口をこまの口をこまの

老一分中はたはのこま一分

中ひくさの一分中此劔はこま

と牙よりけあるる人喰は用



打金

は劔をこまの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの
小縄とらふはたはのこまの口をこまの口をこまの口をこまの

用二重にやるとあるはこまの口をこまの口をこまの口をこまの

のこまの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの

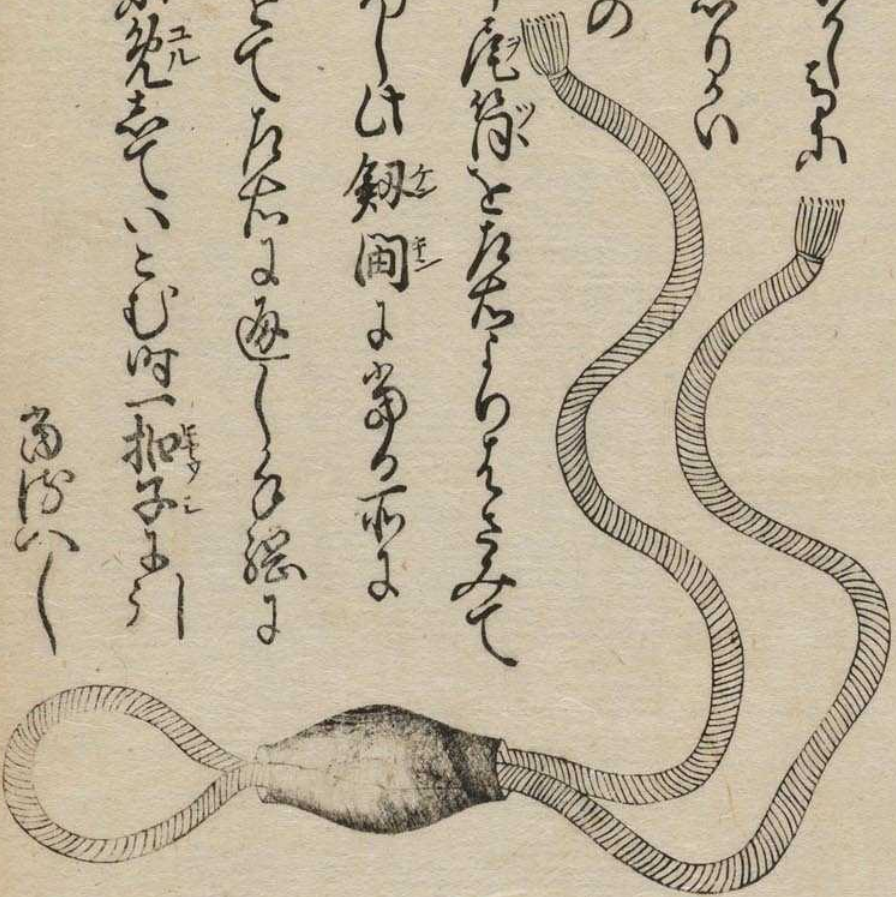
とこまの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの

内まの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの

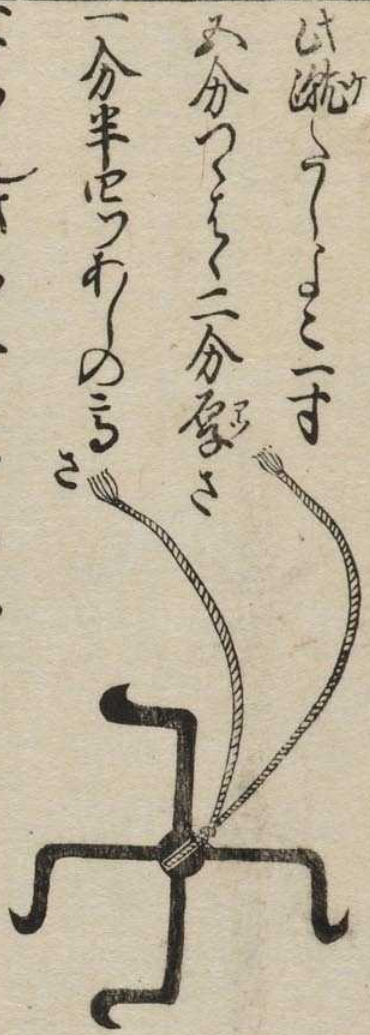
垂て糸のこまの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの

糸をこまの口をこまの口をこまの口をこまの口をこまの

あはひ



角帯



はし 一吋

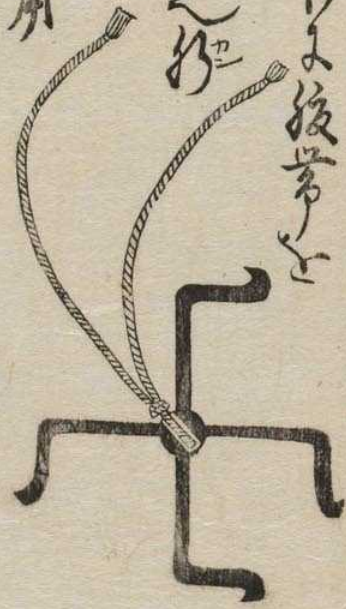
二分厚さ

一分半厚さのうら

二寸とびよるけり中の紐として

後帯の厚さ

後帯の厚さ



解長

はし 一吋とびよるけり中の紐として二分半厚さ二分十文字八分厚さの

つるし

切らるる二寸紐

の丸と切口

紐の紐

一分半厚さのうら(のうら)紐の後帯の厚さ

とびよるけり

二分厚さ

一分半厚さのうら

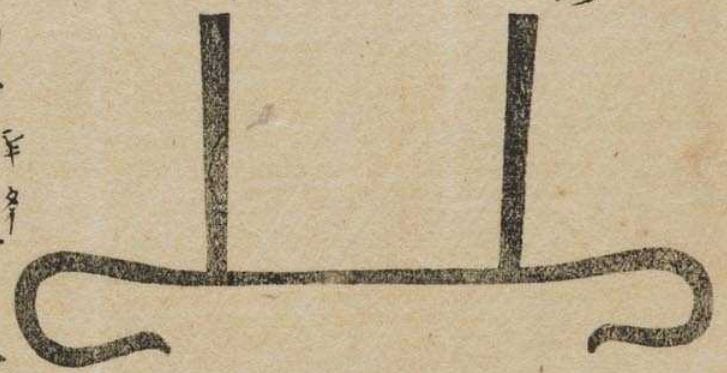


後帯の厚さ

後帯の厚さ

鉄柳

け釵をまわりの内のはし四寸中の
釵を二寸五分ある釵のるす
五分外のりちり丸と一分八厘
け釵の依曲曲へて後法もよ
用

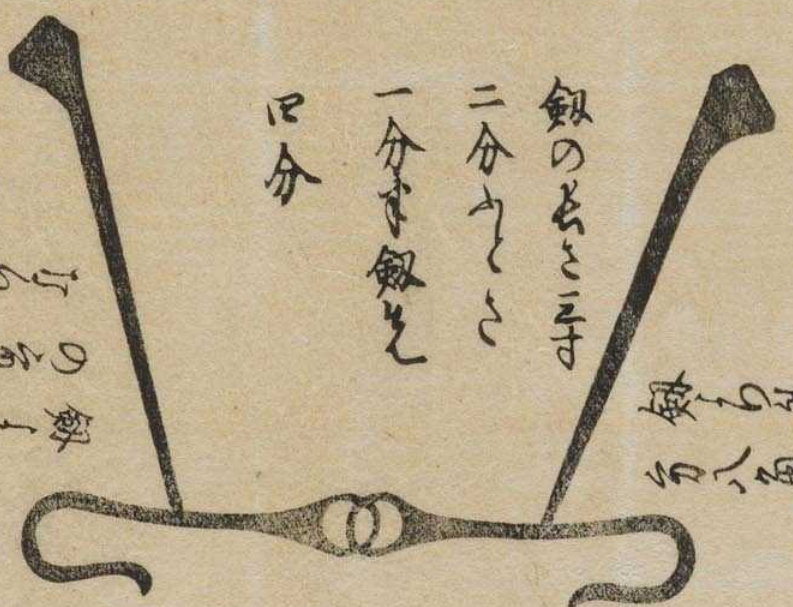


右並方擬釵の秘密として曲と直退とをよこして作のこ
枚年ころのよどりの擬釵の法をさしうけ兼刀さし
うらでけちりしうらへし目ころる形と擬釵さし
擬用上手総仕掛
釵之卷第ニ

口釵

此釵の口柳とて強
もよちけ用釵のわ
もよけ又極端よも
かろちりけ外
用

釵の長さ三寸
二分
一分
四分



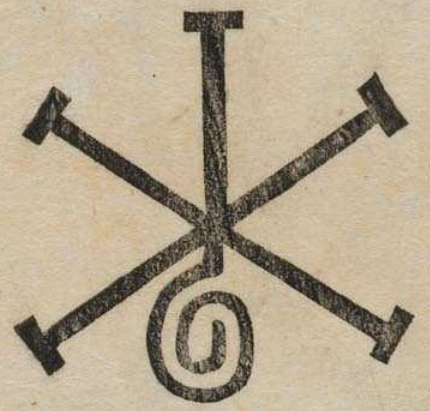
け釵の
の内のはし
八分兩釵の
間三寸釵先
のいら
寸二分

通釵

釵の
の

退劔

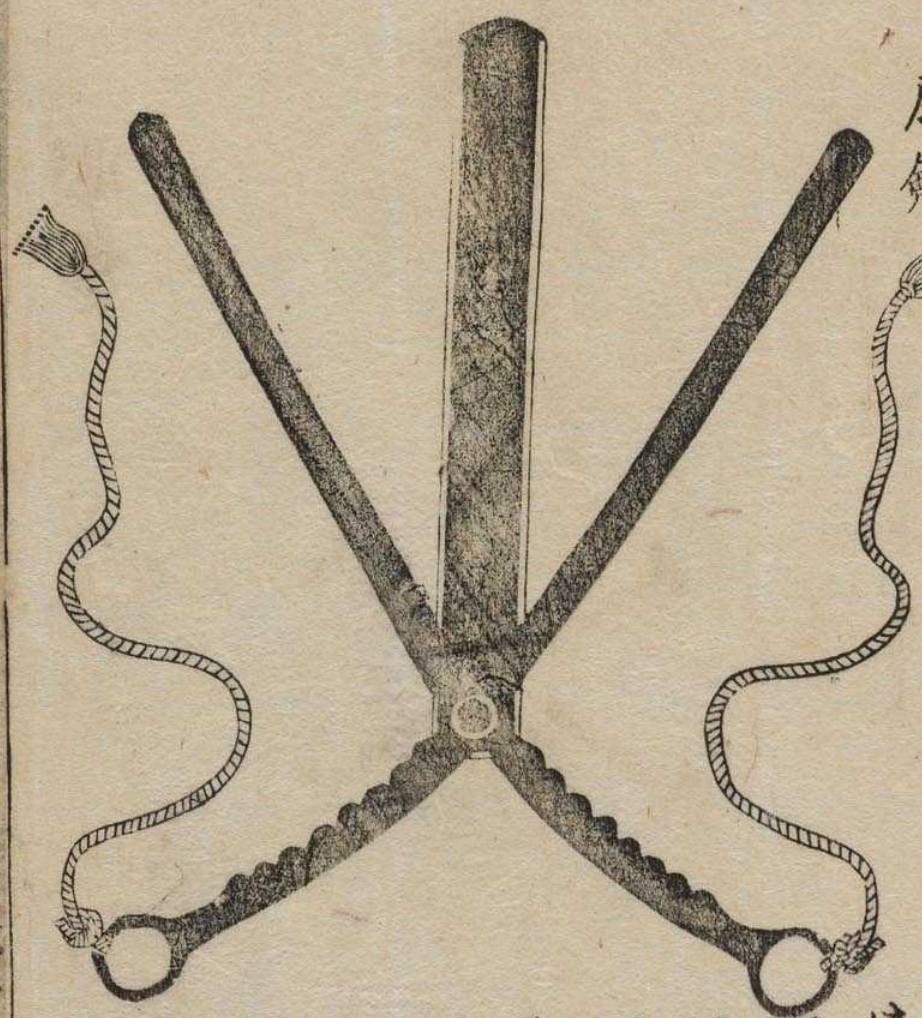
如圖に寸日と
五分三分の寸



寸劔五分へ切ると劔
の長と寸五分の寸
より五分寸の寸を分
半つて五分の寸の
筋の寸と寸の寸の
寸の寸と寸の寸
合寸五分の寸

け劔は人喰らふ用と
け劔は人喰らふ用と
け劔は人喰らふ用と

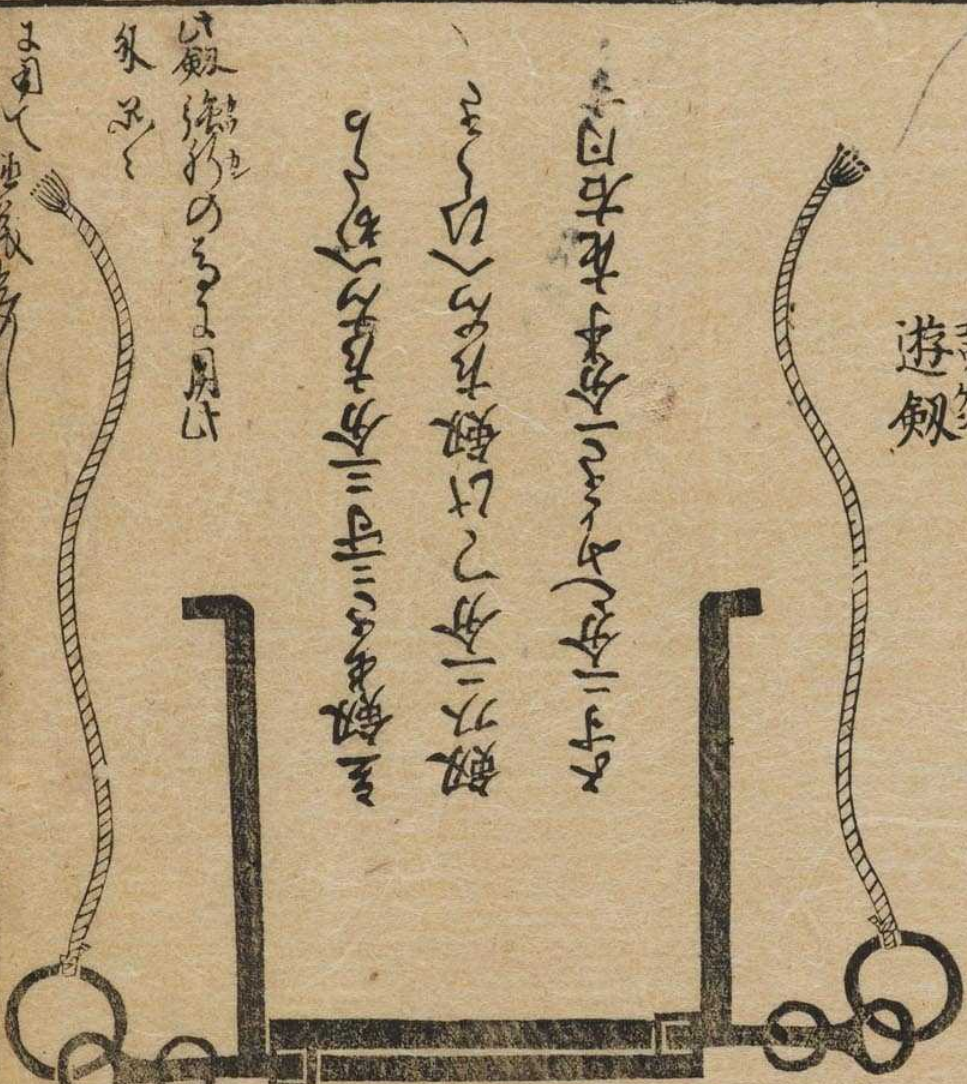
扇劔



け劔かたやま
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや
つとめりや

右の劍中の符の劍長とあるありのさしめて四寸二分あり
 めしありのハ二分ありとさしめて四分ありとさしめて四分あり
 分八重とさしめて三分ありとの四かありあり四寸中ありけ
 ん本と三寸八分ありと二分ありと三分ありと二分ありとめん
 とさしめてあるありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 響のさしめてありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 け劍ハ強ハ曲逆とありふ用ハ強劍あり

遊劍



右の劍長とあるありのさしめて四寸二分あり
 めしありのハ二分ありとさしめて四分ありとさしめて四分あり
 分八重とさしめて三分ありとの四かありあり四寸中ありけ
 ん本と三寸八分ありと二分ありと三分ありと二分ありとめん
 とさしめてあるありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 響のさしめてありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 け劍ハ強ハ曲逆とありふ用ハ強劍あり

け劍強ハのさしめてありのさしめてあり
 外あり

右の劍長とあるありのさしめて四寸二分あり
 めしありのハ二分ありとさしめて四分ありとさしめて四分あり
 分八重とさしめて三分ありとの四かありあり四寸中ありけ
 ん本と三寸八分ありと二分ありと三分ありと二分ありとめん
 とさしめてあるありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 響のさしめてありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 け劍ハ強ハ曲逆とありふ用ハ強劍あり

右の劍長とあるありのさしめて四寸二分あり
 めしありのハ二分ありとさしめて四分ありとさしめて四分あり
 分八重とさしめて三分ありとの四かありあり四寸中ありけ
 ん本と三寸八分ありと二分ありと三分ありと二分ありとめん
 とさしめてあるありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 響のさしめてありのさしめてありのさしめてありのさしめてあり
 け劍ハ強ハ曲逆とありふ用ハ強劍あり

隨劔

劔のりてん

劔のりてん

劔のりてん

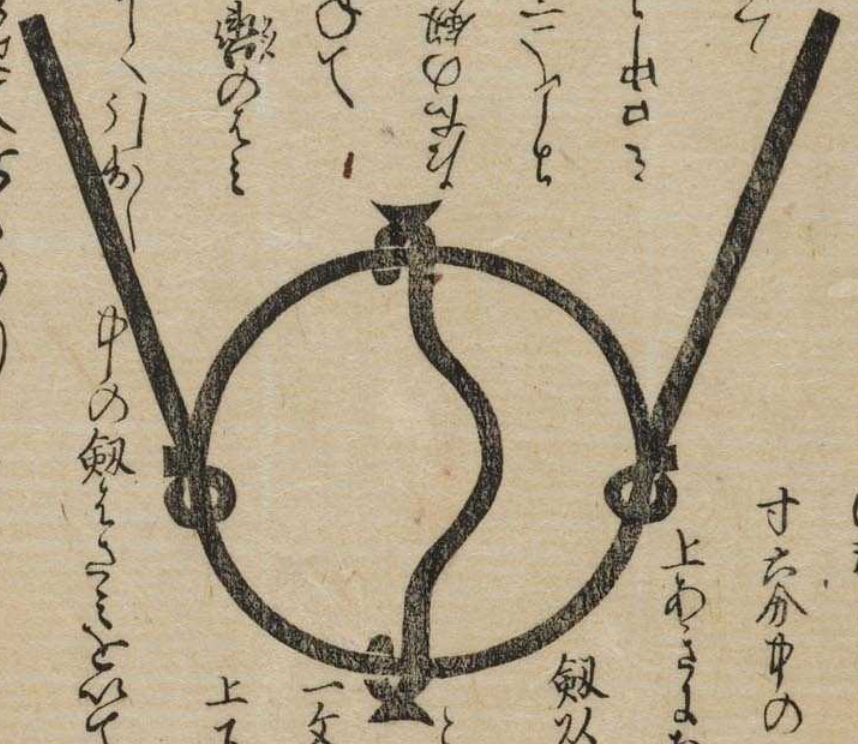
劔のりてん

劔のりてん

劔のりてん

劔のりてん

劔のりてん



は拂内のりてん

寸六分中の劔

上あきよわらる

劔のりてん

一文字よわらる

上下日あき

中の劔

深劔

劔のりてん

劔のりてん



は劔のりてん

寸三寸八分九二分

半内のりてん

かゆきと一文字よ

わら切合え

合のりてん

如劔のりてん

くんとゆわらる

ま

の心よ遂^{キク}心強^{シカク}力^{リキ}を^シ最^{トク}なる^ニい^ハく^シて^ハ一^ニん
 ぶ^ガ健^クなり^{コト}あ^リて^ハ行^キと^ハ動^ク入^ル冷水^{レイスイ}と^ハ用^フなり^ハ行
 弱^{ヤク}此^ノ馬^ノ精^{セイ}氣^キと^ハあり^{コト}を^シて^ハ記^ス別^ニなり^ハ馬^ト
 賣^ウ買^カの^ノもの^ハけ^レ理^リと^ハ書^クと^ハ家^ノり^ハ所^ノ衆^ノ之^ノ御^ノみ
 傷^ヲく^スる^ハ成^リり^ハむ^シり^ハ又^ハと^ハ理^リよ^シと^ハ符^ノ子^ノす
 形^ノあり

春 夏 秋 冬

躰應

古酒 一合 其酒と移^ルと^ハろ^ウろ^ウあ^ハめ^トあ^ハ分^ニよ^シか^テ
 少^クあ^リて^ハあ^ハわ^カさ^ニ合^テ用^フ

右酒 二合 右同^ル日 二合半 右一合半加

同 三合 右二合加 日 右其^レ冷水^{レイスイ}と^ハ合^テよ^シ三^ツ加^ル

加^テと^ハ合^テ用^フ 日 六合右二^ツ加^ル 日 八合

右二^ツ半加 日 一^ツ半右一^ツ半加二^ツ加三^ツ

半加四^ツ加^ル但^シと^ハろ^ウろ^ウあ^ハめ^ト計^リ加^ルの^ハも

右飼用^{ヨウ}と^ハろ^ウろ^ウ手^ノ事^ノ意^ノが^ハら^ハす^ハ何^レ多^クと^ハん^ニあ^リて^ハ遠^ニを^シて

効^カ考^カと^ハべ^テ口^ノ中^ノと^ハ洗^ヒて^ハせ^ラる^ハも^ハの^ハあ^リて^ハか^クと^ハ用^フ

引^キ出^スる^ハ也^{ナリ}

要馬秘極集卷之七

劍之卷終

